

## 男女間に見られる消費パターンの違い チョウ・プエイ・クエン (マレーシア)

マレーシアは、ほぼ全ての階級の人びとがショッピングできる、上流中産階級の収入を持つ国家と考えられます。あらゆるショッピングの場所の中でも、最も人気があるのはショッピングモールです。というのも、快適な環境や人目を引くデザインの中で、ショッピングや娯楽や飲食など全てが一つの場所で対応できるからです。ですから、週末のショッピングモールは、バーゲンのシーズンでなくても、いつもたくさんの人びとで賑わっています。毎日の平均気温が24~34度という熱帯国であるマレーシアでは、余暇を過ごす一つの手段として、エアコンの効いたショッピングモールでウィンドウショッピングを楽しむことも一般的です。

世界各地と同様に、マレーシアでも男女によって消費パターンやショッピング行為が異なります。消費パターンという点では、女性が購入する商品は男性が購入する商品より多種多様です。服、靴、アクセサリ、化粧品、プレゼント、お土産などでは、それまで自分のショッピングリストには載っていなかった商品であろうと、女性はいつでも購入できます。これに対して、ほとんどの男性は、自分の頭の中にある商品だけを購入し、自分のショッピングリストに載っていない商品を購入することは滅多にありません。また、女性は「量」を重視するのに対し、男性は「質」を重視する傾向があります。その理由の一つとして、女性の場合、特定の種類の商品でも、状況に応じた組み合わせやコーディネートのために、さまざまなデザインを必要とすることが考えられます。一方男性は、服の組み合わせやコーディネートに女性ほど力を入れないケースが多く、質を重視します。

こうした違いの他にも、男性より女性の方がバーゲンや販売促進の時期に敏感であることが挙げられます。というのも、こうした時期は、財布の残高がいくらなのか、女性がさほど気にせず存分に買い物を楽しめるからです。ほとんどの男性は自分が欲しかったものしか購入しないので、バーゲンや販売促進には、あまり興味がありません。また、ほとんどの女性は「お金を使っている」という感覚が好きで、ショッピングをストレスの発散方法の一つとしてとらえています。ショッピングを頻繁に楽しむことに罪悪感を覚えないように、女性はショッピングにもっともな理由を見つけたり、与えたりします。反対に男性は不必要なお金を使うことに罪悪感を覚える傾向があります。こうしたことは、家族を養い未来を設計するという、男性の責任感や負担によるものかもしれません。こう考えますと、女性はあまり貯金を気にせず、将来設計を自分のパートナーに頼る傾向があると言えるでしょう。女性は将来よりも現在の生活に関心があるのです。例えば、女性は、本当は必要ないにしても、さまざまなグッズや商品を購入するため、バーゲンや販売促進の時期を見逃すことは滅多にありません。しかしながら、女性は、「自分は実際には貯金しているし、

バーゲンで掘り出し物を買って、また一步賢い消費者に近づいている」と自分自身に心理的に思い込ませようとしています。

ショッピング行為については、女性は、あるお店から別のお店へと、ゆったりとしたペースで歩くのが好きで、品物を検討し、商品や価格を比較し、サンプルを試し、欲しい商品の説明を求め、一番のお買い得商品を探し出そうとします。女性は自由に目的もなく、いろんなお店を回り、新しい商品を検討し、バーゲン品やお買い得品を探すことに、ただ喜びを感じるのです。素敵なお手頃品を見つけた時の感動と興奮は何にも勝り、まるでお宝探しゲームでついに宝箱を見つけたような感覚です。こうしたことが特に著しいのが中等教育後の学生たちです。こうした学生たちはショッピングモールにしょっちゅう通い、ショッピングモールで長い時間を過ごすからです。男性の場合、自分が買うつもの商品を探すだけで、ウィンドウショッピングには興味がありません。もし行く店の場所が分かっていたら、その店に一直線に進み、欲しかった商品を購入し帰宅します。こうした男性の中には、ウィンドウショッピングや目的もなくショッピングすることなど時間の無駄である、と考える人もいます。

しかしながら、男性と女性がカップルで一緒に出かける場合、こうした消費パターンやショッピング行為もやや変わってきます。マレーシアの男性のほとんどが自分のパートナーとゆっくりかつ忍耐強くショッピングすることに前向きです。ただし、退屈そうな顔をしている男性もやはりいます。また、何をかうか、決定が異なるカップルもいますし、一方で、女性が何をかうかを決定して男性がその支払いをする、というカップルもいます。マレーシアでは、特に年配の人びとの間では、女性の食事やショッピングの費用を男性が支払うのが一般的です。これは、一家の金銭面での権限を握るのは大抵の場合男性であるという、その他のアジア諸国とよく似ています。しかしながら、今日、働く女性が増加し、若い世代の間では、「割り勘」のデートの方が良いという傾向も見られます。特に、男女の友達やあまりお金のない学生のカップルの間で顕著に見られます。こうした割り勘を好む傾向も、男性の経済力が安定すると、従来からの慣習へと戻るようです。

